

校友会 史跡クラブ 行程表

日程	6月19日(水)	《雨天決行》
活動場所	佐原・潮来・鹿島神宮	
集合場所・時間	ウエスタ川越 7時50分(時間厳守)	
会費	¥6,500	
行程概要(午前)	ウエスタ川越 8:00 ~ 川越IC ~ 鶴ヶ島JCT (関越道)	
	神崎IC ~ 佐原(街中散策) ~ 佐原あやめパーク (圏央道~利根水郷ライン) (さっぱ舟)	
(昼食)	潮来のレストラン(予約済)	
(午後)	水郷潮来あやめ園(あやめ祭り) ~ 鹿島神宮	
	潮来IC 16:00 ~ 三郷JCT ~ 川越IC (東関道・外環道・関越道)	
	ウエスタ川越 18:00 解散	

● 小江戸佐原

佐原は古くから水郷の街として栄え、小野川沿いと街道沿いの一部に当時の貴重な建物が多く残り、関東で初めて「重要伝統的建物群保存地区」に選定されている。古代から香取神宮の神領・門前町として拓けていたが、江戸幕府による利根川の東遷事業により川筋が現在の形に改修されると、銚子から江戸への利根川水路が整備され、佐原は東北諸藩からの年貢米や周辺地域の物資の集散地として繁栄した。

「お江戸見たけりゃ佐原へござれ、佐原本町江戸まさり」と歌われる程立派な町屋が軒を並べるようになった。

佐原の名前は香取神社の祭典の時に使用する土器「浅原(さわら)」を作って納めていたことによると言われている。佐原の大祭(夏の八坂神社の祇園祭と諏訪神社の秋祭り)は、「川越祭」同様にユネスコ世界無形文化遺産に登録され、また祭の際の「佐原囃子」は、日本三大囃子とされている。

● 伊能忠敬

忠敬は延享2年(1745)に現在の千葉県九十九里町の名主の家に生まれたが、家の複雑な事情から親戚の家を転々とするなど苦労して育ったと言う。17歳の時に佐原開創の伊能氏の末裔で米穀商と醸造業を営む商家の婿養子に入り、家業を発展させ、後に佐原の名主となり苗字帯刀も許された。50歳で家督を息子に譲り、江戸に出て学び、寛政12年(1800)から文化13年(1816)まで足掛け17年かけて全国を測量して歩き、日本地図を制作した。(実際に「大日本沿海輿地全図」として完成したのは没後の文政4年(1821))

● 鹿島神宮

鹿島神宮は常陸国の一宮であり全国にある鹿島神社の総本社で、歴史は古く「常陸国風土記」にも確認されている東国随一の古社である。格式も高く宮中で天皇陛下が元旦に四方拝として遥拝される一社でもある。御祭神は「武甕槌(たけみかづち建御雷とも)大神」で神代の昔、天照大御神の命を受けて香取神宮の御祭神「経津(ふつ)大神」と共に出雲の国に天降り、大国主命にせまり国譲りの交渉を成就させたと言う。社伝によると神宮の創建は神武天皇の御世と言われ、神武東征の途中で窮地に陥った時に武甕槌大神の「節霊剣(ふつのみたまのつるぎ、国宝)」の神威により救われたことに感謝して大神をこの地に祀ったとされる。やがて奈良・平安の頃には、国の守護神としてまた東北遠征蝦夷平定の軍神として崇拝された。中世以降も源頼朝や徳川家康等武家政権から武神と崇められていた。鹿島神宮は、下総国一宮の香取神宮と古代から深い関係にあり、現代でも武術方面からの信仰が強く、道場には「鹿島大明神」「香取大明神」の2軸の掛軸を対で掲げられることが多く見られる。

※ 持ち物等 歩き易い靴・健康保険証・雨具・カメラ・飲料・スイカ/パスモ
連絡先 丸田純一(携帯:080-5870-1210)